

幼小接続資料集成

幼児教育資料アーカイブ3

幼稚園・保育所から小学校へ…… 子どもの成長に合わせた、なめらかな教育の「接続」とは？

戦後から2010年代にいたるまで、さまざまに試みられた幼児教育と小学校教育の連携と実践の記録を、「幼小接続」という視点から本格的に集成する、はじめての試み！

本集成は、全国各地で試みられている幼小接続への取り組みから、お茶の水女子大学、神戸大学などの付属学校園における実践記録、そのなかでも現代における「幼小接続」という課題に焦点を絞った資料を集成、復刻した。各校における報告はさまざまな時期に及ぶため、収録した資料は終戦直後から2010年代まで幅広いものとなっている。さらに、GHQ/SCAPによって進められたIFEL（教育指導者講習）によるまぼろしの雑誌『幼年教育』、坂本彦太郎、羽仁説子らの構想を伝える論考を収録する。本集成は「幼小接続」の連携・強化を進め、そのスムーズな移行をすすめてゆくために不可欠な基礎資料を提供するものである。

編集・解説

- 太田 素子（和光大学名誉教授）
- 小玉 亮子（お茶の水女子大学教授）
- 福元 真由美（青山学院大学教授）
- 浅井 幸子（東京大学准教授）
- 大西 公恵（和光大学准教授）

推薦

- 汐見 稔幸（日本保育学会会長、臨床育児・保育研究会代表）
- 無藤 隆（白梅学園大学名誉教授）

各巻構成

- 第1巻 お茶の水女子大学
- 第2巻 奈良女子大学
- 第3巻 神戸大学
- 第4巻 東京学芸大学
- 第5巻 和光大学ほか
- 第6・7巻 幼年教育1・2

別冊・解説

全7巻・別冊1
全3回配本

体裁 ● 全7巻／2面付・A4判（第6巻・B5判／第7巻・A5判）／
上製／計約4800頁・別冊（附・第3回配本、分売可：本体3,000円＋税）
揃定価 ● 揃本体148,000円＋税（全7巻揃）

不二出版

幼小接続資料集成

全7巻・別冊1
全3回配本

幼児教育資料アーカイブ3

- 編集・解説 ◎ 太田 素子（和光大学名誉教授）・小玉 亮子（お茶の水女子大学教授）
福元 真由美（青山学院大学教授）・浅井 幸子（東京大学准教授）
大西 公恵（和光大学准教授）

- 推薦 ◎ 汐見 稔幸（日本保育学会会長、臨床育児・保育研究会代表）・無藤 隆（白梅学園大学名誉教授）

- 揃定価 ◎ 揃本体148,000円＋税（全7巻揃）

- 体裁 ◎ 全7巻／2面付／A4判（第6巻・B5判／第7巻・A5判）／上製 布クロス装／計約4800頁

- 構成 第1巻 お茶の水女子大学 第2巻 奈良女子大学 第3巻 神戸大学 第4巻 東京学芸大学
第5巻 和光大学ほか 第6・7巻 幼年教育1・2 別冊・解説 *別冊のみ分売可：本体3,000円＋税
ISBN 978-4-8350-8428-2

● 刊行予定

配本		予定価	ISBN-No.	刊行予定
第1回配本	全2巻 第3・4巻	本体44,000円＋税	978-4-8350-8417-6	(2021年4月刊行予定)
第2回配本	全3巻 第1・2・5巻	本体66,000円＋税	978-4-8350-8420-6	(2021年9月刊行予定)
第3回配本	全2巻 第6・7巻・別冊	本体38,000円＋税	978-4-8350-8424-4	(2021年11月刊行予定)

お薦め先 ● 幼児教育、保育、初等教育、カリキュラム、教育内容等の研究者、大学図書館・専門図書館等



幼児教育資料アーカイブ2

戦前期愛育会関係資料集成

解説——湯川嘉津美 全11巻
資料協力——恩賜財団母子愛育会・金沢大学附属図書館ほか
推薦——網野武博・穴戸健夫
体裁——B5判・上製・布クロス装・総約4500頁〔2面付〕
三田谷啓、三木安正、倉橋惣三ら、保育、医療衛生、社会事業、心理学等、各方面の第一人者が横断的に協力し、全国的な母子保護運動を展開した愛育会。
その活動からは戦時下における母性・児童保護の実情がつぶさに伝わる。全国各地に普及した調査、啓蒙の足跡を伝える創設来の雑誌『愛育』『愛育新聞』はじめ、現在ではほぼ入手困難となった希少な啓蒙書・パンフレット類を、恩賜財団母子愛育会の協力を得て、一挙に復刻するはじめての試み！

好評
刊行中！

● 主な収録内容 ●

『愛育』1巻1号-10巻8号（1935年7月-44年11月、計110号）、『愛育新聞』1巻1号-6巻10号（1938年4月-43年10月）、『愛育のこころ』（1940年）、『愛育叢書』全6輯（1936-39年）、『子ども愛育展覧会記念帖』（1936年）、『戦没者遺族保育所保母養成講習会記念帖 いざゆかんふたばの護りに』（1940年）、『愛育村の組織と事業』（1939年）

揃定価——揃本体220,000円＋税

第1回配本 第8・9巻（全2巻）	40,000円＋税	978-4-8350-8356-8	2020年5月刊行
第2回配本 第10・11巻（全2巻）	40,000円＋税	978-4-8350-8359-9	2020年7月刊行
第3回配本 第1-3巻（全3巻）	60,000円＋税	978-4-8350-8362-9	2020年12月刊行
第4回配本 第4-7巻（全4巻）	80,000円＋税	978-4-8350-8366-7	2021年2月刊行予定



日本におけるカリキュラム・マネジメントの淵源を大正期に探る！ 大正新教育 学級・学校経営重要文献選

編集・解説——橋本美保・遠座知恵

推薦——天笠茂・佐藤学

揃定価——揃本体価180,000円＋税

体裁——A5判・上製・布クロス装・総約4,000頁〔各巻約400頁〕

全Ⅱ期・全3回配本・全10巻

完結!!

カリキュラム・マネジメントをどのように考えるか？当時の教育者、実践家たちの理想と実践を理解するために欠かせない、大正新教育期における学級経営、学校経営の重要な文献・論考を精選する、はじめての文献・論文選集。澤正『学級経営』はもちろん、及川平治や西山哲治など明治期の教育者はじめ、北澤種一、木下竹次、野村芳兵衛、齋藤諸平、赤井米吉などの幅広い論考、約60点を収録。——大正新教育の教育実践が、今よみがえる！

● 第Ⅰ期 高等師範学校における学級・学校経営

第1回配本
第1-3巻 ● 本体価54,000円＋税
(2019年7月刊行)
ISBN978-4-8350-8283-7

第2回配本
第4-6巻 ● 本体価54,000円＋税
(2019年12月刊行)
ISBN978-4-8350-8287-5

● 第Ⅱ期 師範学校付属小学校・公立校・私立校における学級・学校経営

第3回配本
第7-10巻 ● 本体価72,000円＋税
(2020年5月刊行)
ISBN978-4-8350-8291-2

振替 東京電文区水道210104054
F T 〒112-0005
A E 不二出版
X L 00335981670044

不二出版

表示価格はすべて税別

幼小接続をめぐる実践とその可能性をひらく 太田 素子

日本の近代的な幼児教育の制度と実践は、150年近い経験の積み重ねからくる共通理解の深まりの一方で、近年まで先進国の制度にはそぐわない後進性を残してきた。幼稚園と保育所が就学年齢まで並存する制度下で、幼保それぞれがあまりに独自の発展を遂げたため、新しく認定子ども園を設立しても、保育内容の創出までには理論的・実践的課題が数多く残されているのが現状である。

さらにグローバル化やICT技術の革新、地球温暖化や少子高齢化など、変化の激しい時代において、自らの生き方を選択し、新しい世界を生み出すことのできる次世代を育てることが課題とされるいま、乳幼児期の保育・教育と、初等教育の連携・接続に、教育関係者の関心が寄せられている。2018年度施行「幼稚園教育要領」に掲げられた「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、幼児教育の戦後史のなかできわめて特別な出来事である。「学校教育体系の一環としての幼児教育」は学校教育法制定以来の理念であり、幼児教育を時代の要求にふさわしく展開するためには、学校教育との差異と関連を見つめなおし、学校教育の基礎に据える取り組みが必要であろう。だがそれが、双方のカリキュラムの順次性や教育目標のレベルで調整されるべきなのかどうか、クリティカルな議論を十分に深めておく必要がある。

国際比較調査で明らかにされたように、日本の幼児教育は子どもの集団的な関わりを保育に活かし、子どもの関心や意欲を励ますことにすぐれていること、幼児期の就園率が幼保で90数パーセントと高く、公的な保育が普及していることなど、貴重な資源をもっている。さらに幼小接続を考えるうえでは、歴史的に重要な資源としての、国立大学の付属幼稚園に注目したい。旧師範学校の附属学校園は、20世紀初めに世界の新教育を精力的に吸収し、幼児期から小学校低学年まで連続した性格の教育を生み出そうと努めた。その貴重な遺産である新教育の系譜から接続問題への研究の手がかりを、あらためてまとめておきたいと考えたのである。

本集成では最初の官立幼稚園を擁するお茶の水女子大学をはじめ、奈良女子大学、神戸大学などの国立大学、そして和光大学など私立大学関係の報告書をまとめる。各学校園が幼小接続に関して研究した時期はさまざまだが、多くは1990年代以降のものとなっている。さらに占領下において、その積極的な意義を見出された「幼年教育」の実態を捉えるため、雑誌『幼年教育』と羽仁説子らによる関連論考を収録する。

この集成によって、接続をめぐる実践とその可能性がひらかれ、今後の研究をファシリテートする方々や学生のツールの一つとなることを願っている。

(おおた・もとこ 和光大学名誉教授)

幼保小の理念を有機的につなぐ

汐見 稔幸

幼小接続あるいは幼保小の接続問題の背後にある本当の問題は、意図的計画的な学校カリキュラムを何歳からつくり上げていくのかということです。現在では、大部分の子どもたちが幼稚園、保育所、こども園に通っているわけですから、幼少期のカリキュラムと学齢期のカリキュラムは、同一方向を向っていることが必要になります。そのためにまず、幼児教育と小学校以降の教育でめざす人間像の大枠が一致していることが必要になります。そうでないと子どもたちに、幼児期と学齢期とでは別の山道を登りなさいというのと似たことが起こります。そのうえで、教育を通じて、子どもたちに具体的にどういった資質・能力を育むか、これも基本が一致していることが必要になります。これは、学校教育のカリキュラムを実質的に幼児期からつくっていくということにつながります。現在のように、大部分の子どもが保育・幼児教育を受けているような時代には、カリキュラムの統合、連携努力が不可欠のはずです。

理屈で考えればそう思えるのですが、幼稚園が義務教育でないことが行政上の責任と管轄の違いにつながって、実際にはこれまで幼保小の教育目標や目指す人間像などを共通化し、そこから教育内容を有機的につなげていく努力は不十分でした。そのため、国は急いで幼保小の接続連携の強化を訴えています

が、実は、大きな流れではありませんが、これまでの歴史のなかで、そうした努力を自覚的に追求してきたところがありました。国立の付属幼稚園と付属小学校、そして幼児教育から大学までの教育を一貫して行っている私立の学校などです。そこには、乳幼児期から責任をもって小学校以降まで育てていくための幼保小の連携や、カリキュラムの接続は実際にどうあるべきかについての具体的な経験、スムーズな連携接続を妨げる要因などの知見が蓄積されています。

戦後初期に、わが国の保育、幼児教育の制度化に多大な貢献をした倉橋樞三氏と坂元彦太郎氏は、戦後の義務教育を3歳からはじめるものにしたかったと、のちに語っています。「私が生きているあいだは無理だろうが」と倉橋氏がいったと坂元氏は回顧されていますが、こうした発言は、幼保と小を一貫させようとする努力が戦前からあったことを、両氏が熟知していたからだと思われます。

本集成は、そうした先人の努力を余すところなく網羅するという意欲的なもので、これから幼保小の接続、連携の強化を考えている園、学校には格好の資料となると思います。

(しおみ・としゆき 日本保育学会会長、臨床育児・保育研究会代表)

苦心重ねる現場に貴重な資料

無藤 隆

幼児教育（保育）、すなわち幼稚園・保育所・認定こども園と小学校とのあいだの繋がりを、それぞれの時期の特性を大事にしつつもスムーズに移行できるようにしていくことは、幼児教育そして小学校の低学年教育（すなわち小学校教育の素地の形成の時期）の質を高めていく要となる方策であるのです。そして今、そのことを多くの人が認識するようになり、その実践的な試みが全国各地で展開されています。いい換えれば、日本の幼児教育（保育）や小学校以降の学校教育は、各々の段階では比較的質の高い保育・教育を実現しようと頑張ってきた子どもたちの力や態度が次の時期にうまく生かされず、無駄に足踏みさせているのではないかと考えるようになったのです。そこで、2017年の関連法令の改定では、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校と足並みを揃えて、子どもの資質・能力を育成することを根幹に据えながら、具体的な子どもの育ちの姿を共有することを通して、前の時期の育ちを後の時期に生かして質の高い教育を実現しようとしているのです。

こういう考えは一朝一夕にできたわけではありません。むしろ、机の上の理屈というより、かなり長いあいだの実践現場での試行の努力が実り、少しずつかたちになってきたのです。そ

してさらにその元をたどれば、戦後まもなくの時期から幼児教育と小学校教育をつなごうという構想があり、その努力が折々になされてきています。そういう営みを受けて、要領・指針が改訂され、そしておそらくさらなる現場での実践的努力を受けて、今後改訂がさらになされると思われます。そのように、幼児教育と小学校教育をつなぐ接続の考えは、上からの主導というより、実践現場での営々とした試みを反映しているものです。そしてその中心を担ってきたのが、全国各地の国立大学の教育学の研究者とその附属学校園の実践者の協働の実践であり、またそこに私学の学校園なども、独自の寄与をしてきています。

この集成により、そうした営みの多くを文書としてあらためて読むことができることは、近年の幼児教育と小学校低学年教育の改革の流れを知るという歴史的な関心に応えるものですが、それと同時に、今、幼児教育と小学校教育の接続を進めることに苦心を重ねている全国の方々にとって貴重な資料となるものです。この資料を読み込むことで、その開拓的営みをいかに進めるかへのヒントが、多々得られることでしょう。

本集成を貴重な資料として推薦いたします。
(むとう・たかし 白梅学園大学名誉教授)



内容見本

幼小接続分科会 「いっしょにやろうね」

1. 活版の構築

(1) 交流活動におけるおもちゃの役割

(2) アップルとバナナ (5月) (6月) (7月)

1年時は、おもちゃがつくった遊具をもちあそびながら、虫食い遊びや、虫食い遊びをしながら遊ぶことに慣れさせたい。虫食い遊びは、虫食い遊びをしながら遊ぶことに慣れさせたい。虫食い遊びは、虫食い遊びをしながら遊ぶことに慣れさせたい。

3. 「つながり」と「交流」

一幼小連携をめぐる幼稚園と小学校の違いから

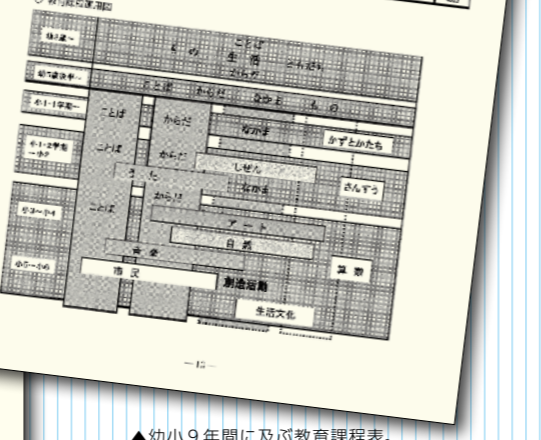
園児の生活の場としての、幼稚園と小学校との違い (3月、3月) (3月) (3月)

幼稚園と小学校との違い (3月、3月) (3月) (3月)

幼稚園と小学校との違い (3月、3月) (3月) (3月)

幼小9年間の教育課程

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
国語	○	○	○	○	○	○	○	○	○
算数									
理科									
社会									
外国語									
音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○
美術	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体育	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生活科									
総合的な学習の時間									
特別活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○



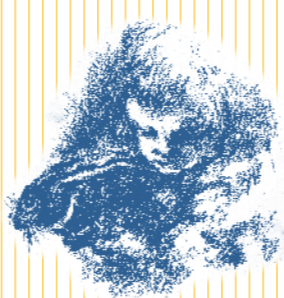
▲幼小9年間に及び教育課程表。カリキュラムにおける様々な試み (第1巻『お茶の水女子大学』より)

▲「幼児教育と小学校教育をつなぐ」(2005)は、幼小連携をめぐる議論や調査、論考を掲載 (第1巻『お茶の水女子大学』より)

▲本集成収録の各校における実践的な実践の記録は、その質・量ともに他にみられないものである (第4巻『東京学芸大学』より)

● 収録予定資料一覧

- 巻構成、収録は2021年1月現在のものであり、第2回配本以降は変更する場合がございます。
- 各資料解説は、別冊として第3回配本に附す予定です。
- 収録は1頁2面付による、影印版復刻となります。



第1回配本		
第3巻 神戸大学 太田 素子 編		
明石附小プラン (試案) 昭和三十二年七月 (『研究紀要』4)	兵庫師範学校女子部附属小学校	1948
経験基準表 (試案) 明石附属プラン (『研究紀要』8、昭和三十五年七月)	神戸大学兵庫師範学校明石附属校園	1950
幼稚園教育課程試案 年少	神戸大学教育学部附属幼稚園	1956
幼稚園教育課程試案 年長		1956
幼稚園及び小学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発 (昭和三十五年 教育課程の基準改善のための教育研究開発に関する報告書)	神戸大学教育学部附属幼稚園・神戸大学教育学部附属明石小学校	1977
子どもとつくる教育課程の研究 (『教育子午線』vol.3、特集 幼・小・中12か年連携研究に根ざした教育課程の提唱)	神戸大学発達科学部附属明石小学校・中学校研究会	1994
幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための新分野創設にむけたカリキュラムと指導方法等の研究開発 (文部科学省研究開発学校 研究開発実施報告書 平成23年度第2年次)	神戸大学附属幼稚園	2012
「幼小接続」から「幼小一体」へ9年間を一体としてとらえた「初等教育要領」の開発をめざして (平成25-28年度文部科学省研究開発学校指定第4年次、『幼稚園研究紀要』37・『小学校研究紀要』4)	神戸大学附属幼稚園・附属小学校	2016
第4巻 東京学芸大学 福元 真由美 編		
新竹早カリキュラムの編成と実施 心身の発達に即した、自己教育力の基礎基本の育成・定着を図る教育課程の開発 幼稚園と小学校1年、2年の連携、一貫教育を通して (平成2年度文部省研究開発学校指定1年次、『研究紀要』) / (平成4年度文部省研究開発学校指定3年次、『研究紀要』)	東京学芸大学附属竹早小学校・幼稚園	1991・93
教育課程作成の手引き (平成5年度、幼稚園・1年用)		1994
学びの場をひらく (平成8年度、『研究紀要』第15集)		1997
幼小中の新しい連携を目指す基礎的研究 先行研究を踏まえた竹早地区の新しい連携のあり方の考察 (平成14年度教育改善推進費 (学長裁量経費) 報告書、『研究紀要』第41号)	竹早地区研究プロジェクト (東京学芸大学附属竹早中学校)	2003
主体性を育む幼・小・中連携の教育 幼・小・中の接続期に着目して (平成19年度、『東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校・中学校研究紀要』)	東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校・中学校	2008
主体性を育む幼・小・中連携の教育 連携カリキュラムの提案 (平成24年度、『東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校・中学校研究紀要』)		2013
竹早地区 連携カリキュラム集録 (平成24年度、『幼・小・中公開研究会別冊資料』)		2012
第2回配本		
第1巻 お茶の水女子大学 小玉 亮子 編		
幼稚園及び小学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発 幼稚園及び小学校において、幼児・児童の心身発達に対応して、幼稚園及び小学校の連携を図る教育課程の研究開発を行う (昭和三十二年、第2次報告書) / (昭和三十二年、第3次報告書)	お茶の水女子大学附属小学校	1987・88
幼稚園及び小学校における教育の連携を深める教育課程の研究開発 関わりあって学ぶ力を育成する教育内容・方法の研究開発 学びの基礎・基本を育む異年齢体験活動 (平成13年度、第1年次報告書) / (平成14年度、第2年次報告書) / (平成15年度、第3年次報告書)	お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校	2001・02・03
幼児教育と小学校教育をつなぐ 幼小連携の現状と課題	お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター	2005
幼・小・中12年間の学びの適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの研究開発 協働して学びを生み出す子どもを育てる (平成17年度研究開発実施報告書、第1年次) / (平成18年度研究開発実施報告書、第2年次) / (平成19年度研究開発実施報告書、第3年次)	お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校・中学校	2006・07・08
附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究 高度専門的研究力を持つ教員養成・現職研修システムの構築と幼小接続期の新学校制度開発 (平成22〈2010〉年度成果報告書) / (平成23〈2011〉年度成果報告書) / (平成24〈2012〉年度成果報告書) / (平成25〈2013〉年度成果報告書) / (平成22〈2010〉年~平成27〈2015〉年度、最終成果報告書)	お茶の水女子大学学校教育研究部	2011・12・13・14・16

第2巻 奈良女子大学 大西 公恵 編		
事物認識とその表現形成の徹底化を通して独創的で「ねばり強い」思考能力を育成する 幼・小・中等15年間にわたる教育課程の研究開発、第1年次 (平成19年11月、『研究紀要』第28集) / (平成21年11月、『研究紀要』第29集)	奈良女子大学附属幼稚園幼年教育研究会	2007・08
幼小一貫教育において「読解と表現を〈つなぐ〉論理的思考力」を育成する教育課程の研究開発 (平成22年3月、文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成21年度第1年次) / (平成22年3月、文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成22年度第2年次) / (平成22年3月、文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成23年度第3年次)	奈良女子大学附属幼稚園 / 附属小学校	2010・11・12
教育課程・指導計画 (『研究紀要』第30集)		2013
幼小一貫教育において生活と学習をつなぎ、同年齢や異年齢で協働的に探究を深め、多様な能力や個性的な才能を引き出す「生活学習力」を育成する教育課程の研究開発 (文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成27年度第1年次) / (文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成28年度第2年次) / (文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成29年度第3年次) / (文部科学省研究開発学校研究開発実施報告書、平成30年度第4年次)		2016・17・18・19
第5巻 和光大学 ほか (仮) 太田 素子 編		
子どもとつくる学び 数量認識を中心に (第1回和光幼稚園・第23回和光小学校合同公開研究会発表要項、研究主題)	和光幼稚園・和光小学校	2014
子どもとともに創る活動・授業 (第9回和光鶴川幼稚園・第23回和光鶴川小学校合同公開研究会発表要項、研究主題)	和光鶴川幼稚園・和光鶴川小学校	2016
これからの子どもたちに育てたい力「英語」「道徳」「アクティブラーニング」その先にあるもの (第24回和光鶴川小学校公開研究会発表要項、研究主題)	和光鶴川小学校	2017
私が体験した総合学習・第一段階の総合学習の実践 (梅根悟・海老原治善・丸木正臣編『総合学習の探究』教育改革シリーズ8)	丸木正臣・坂爪セキ / 勁草書房	1977
第3回配本		
第6・7巻 幼年教育 浅井 幸子 編		
幼児教育 第6回教育指導者講習研究集録 (昭和三十二年)	〔教育指導者講習会〕	1951
『幼年教育』第1号 (家庭・幼稚園・小学校低学年をふくむ教育の全体計画)	I F E L 幼年教育研究会 / 国民図書刊行会	1952
『幼年教育』第2号 (幼年期における情緒の教育)		1953
『幼年教育』第3号 (幼年教育の前進のために)		1953
『早春の友』第3号	I F E L 幼年教育研究会	1955
『早春の友』第4号		1955
『幼年教育』編集をめぐって思い出すこと (『チャイルド本社五十年史』)	角尾稔 / チャイルド本社	1984
楽園の再興 (『幼児の教育』46巻4号)	坂元彦太郎 / 日本幼稚園協会	1947.5.
楽園の新生 (『幼児の教育』47巻4号)		1948.4.
楽園の再建 (『幼児の教育』49巻1号)		1950.1.
幼児教育の「義務化」 幼児教育の基本問題その一 (『幼児の教育』66巻2号)		1967.2.
幼児教育と中教審の基本構想 (『幼児の教育』69巻9号)		1970.9.
中教審の答申と幼児教育 (『幼児の教育』70巻11号)		1971.11.
回想 中教審答申に至る内幕 (岡田正章・久保いとほか編『戦後保育史』第2巻)	坂元彦太郎 / フレーベル館	1980
幼児の教育 第六分科会 学齢前児童の生活実態とその教育問題 (日本教職員組合編『日本の教育 第2回全国教育研究大会報告』)	羽仁説子 / 岩波書店	1953
幼年教育 第15分科会 (『教研活動の10年 民主教育確立への歩み』)	羽仁説子 / 日本教職員組合	1961
幼・小一貫教育が急務 学齢を二年下げて義務制に (日本教育新聞社編『学制改革 私の提言』)	羽仁説子 / 日本教団	1967
幼年教育研究協議会の誕生 (『幼年教育五十年 子どもは未来のもの』)	羽仁説子 / 草土文化	1975
新しい幼年教育の理念 (『羽仁説子の本1 幼年教育』)		1980
全幼教成立の過程と幼年教育理念 / 全幼協と私 (『全幼協とは』)	羽仁説子 / 全国幼年教育研究協議会	1980
幼年期における造形表現 (周郷博・藤沢典明編『幼年教育のために 幼年の美術』)	周郷博 / 国民図書刊行会	1956